

日 時 令和 2年1月27日(月) 3校時
場 所 開 陽 高 等 学 校 体 育 館
対 象 体育B①バスケットボール選択者15人
指導者 県立開陽高等学校 全日制 吉村 健太

1 単元名 球技「バスケットボール」

2 単元の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。
- (2) 球技における自他や社会の課題を発見し、試行し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

3 基盤

(1) 教材観

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。バスケットボールは、球技の中でも「ゴール型」として位置づけられる。

本校では様々な学校から入学してくる生徒たちがおり、種目に対する経験や知識もさまざまであるが、そんな中でも勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。

最終的には、できる限り高いレベルでゲーム展開を楽しめるような学習に仕上げていきたい。

また、球技の学習に自主的に取り組み、フェアにプレーすること、分担した役割を果たすことや話し合いに参加することなどに意欲を持ち、自己の健康や安全に気を配るとともに、技術の名称や行い方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫出来るようにすることが大切である。

このような点から、バスケットボールは高校生の時期に適している教材の一つであるといえる。

(2) 指導観

バスケットボールでは、「ボール操作」や「ボールを持たない時の動き」などの基本的な技能を身に着けさせ、その技能を活用しながら、いかに試合を進めていくかを追求していきたい。本校では、球技「ゴール型」として前・後期を通じてバスケットボールを選択制授業の中に取り入れている。本時では、攻撃を重視し、空間に走り込みマークをかわしてゴール前での攻防を展開できるように指導したい。

基本的な技能の中でも特に「ボール操作」を中心に扱い、ドリブルやスナップ、パスなどのボールハンドリングをスムーズに行えることを目指す。ドリブルやパスは力強く行うことで安定するということが気づかせたい。

また、その時の姿勢や体の使い方についても教え、ポイントを習得させたいと考えている。

本時では、これまでに学んできた「ボールハンドリング・レイアップシュート」を中心にゲームの中で活用して行う。グループ内で攻撃を重視した学習課題を設定し活動する。時間を区切り、様々なドリルや気づきのための運動動作を取り入れて、より安定したレイアップシュートの習得を目指す。ゲームの中では空間に走りこむ場面を生み出せるのではないかと考えている。スペースの見極め、タイミングの良い声掛けやパスが攻撃を仕掛ける上でいかに有効かを考えさせたい。ゲーム中、人数制限によりコートに入れない生徒が出るが、得点係や動きの観察をさせながら学びを深めさせたい。

生徒は、ゲームの勝敗にこだわるために、偏ったパス回しや単調な攻撃に陥りやすい。できる限り仲間と連携してスペースを作り出し、本時でも学習するレイアップシュートを活用する事に重点を置き、活動するよう指導する。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ゴール方向の守備者がいない位置でシュートができる ・ノーマークの味方にパスが出せる ・パスやドリブル等でボールキープできる	・フェアプレーを心がけているとしている ・分担した役割を果たそうとしている ・仲間の学習を援助しようとしている	・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を身に付けている ・自己やチームの課題を見つけている

5 指導計画（全10時間：本時7／10）

時間	学習のねらい	おもな学習活動	評価規準(評価方法)
1	・ルールやラインの名称、役割について確認する ・健康、安全に留意することの重要性を理解する	・オリエンテーション ・ルール説明 ・道具管理について	・特性や成り立ち、技術の名称について正しく理解している【知識・技能】
2	・基本的なボール操作について既習内容の確認をする ・動きながらパスをつなげる	・基本的なボール操作の練習（パス、ドリブル、シュート）	・球技学習に積極的に取組もうとしている【主体的に学習に取り組む態度】
3	・学習に積極的に取組もうとすることの重要性を理解する	・ゴール下シュート 行い方、ポイント	・健康・安全に留意している【主体的に学習に取り組む態度】
4	・基本的なボール操作を確認する ・仲間と連携し、スピード感を持ってパスをつなげる	・対面パス ・ゴール下シュート	・ゴール下での攻防を展開するためのボール操作ができる【技】
5	・正確なパスや空間に走りこむ動きを使ってゴールに迫る。 ・空間に走りこむ動きによりゴール前での攻防を展開できる	・アウトナンバー 2対1 3対2	・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる【技】
6	・仲間と作戦を立てることの重要性を理解する ・空間に走りこむ動きを展開できる	・グループ反省会 (皆が目指すゲーム像)	・作戦等についての話し合いに参加しようとしている【主体的に学習に取り組む態度】
7	・基本的なボール操作を確認する ・ステップ、ジャンプ、シュートをより安定的に行う	・レイアップシュート	・ボール操作やステップ、ジャンプ、シュートなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている。【知・技】
8	・基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できる	・ハーフコートゲーム	・作戦会議に参加しようとしている【主体的に学習に取り組む態度】
9	・試合の行い方を理解する ・習得した技能や戦術を活かしゲームができる	・グループ反省会 ・まとめのゲーム① (リーグ戦)	・試合の行い方について、学習した具体例を挙げている【知識・技能】
10	・提供された練習方法から、自己やチームの練習課題に応じた練習方法を選んでいる ・習得した技能や戦術を活かしゲームができる ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、積極的に取り組んでいる	・作戦会議 ・まとめのゲーム② (トーナメント戦)	・提供された練習方法から、自己やチームの練習課題に応じた練習方法を選ぶ【思・判・表】 ・学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面であてはめている【思・判・表】

6 本時の学習

(1) ねらい

レイアップシュートをマスターする。【知・技】

(2) 準備

バスケットボール、ビブス20着、デジタイマー2つ、カラーコーン2個、ホワイトボード、ハンドホイッスル

(3) 展開

過程	学習活動	・教師の支援 ★評価
導入 30分	・集合、整列、挨拶、健康観察 ・準備運動、補強運動 『メンバー確認、授業準備(各々)』 ・ハンドリング+シューティング ・ゴール下シュート(20秒) ・対面パス(7種類、各20秒)	・健康状態を観察し、体調の悪い生徒については無理をさせないように配慮する ・タイマーで区切りいつも通りのドリルを協力し合い実施させる ・本時のポイントへつながるような動きを引き出させる
展開 40分	・本時の学習内容を知る レイアップシュートの習得(空中姿勢) ・空中姿勢の確認 床にボールをそっと置く。 空中の姿勢を見て覚える。実践 ・既習事項の確認、実践 ① パス&ゴー(ステップ) ② Noドリブル(ジャンプ) ③ レイアップ(シュート) 『右』『左』『置いてくる』のリズム ・試合形式 レイアップシュート(3点)ゲーム ① ゲーム(5分) ② 作戦タイム(5分) ③ ゲーム(5分)	・本時の流れと課題を知らせ、見通しを持って学習できるようにする ・理想的な空中姿勢について、実際に体感させる。 ・理想的な空中姿勢を審判台に乗って、実践し視覚的に覚えさせる。 ・カラーコーンを使用し、1右・2左のステップを意識させる。 ・強くジャンプさせ、空中の姿勢を安定させる。(右太腿が床と平行) ・ボールをバックボードに置いてくるように、リリースさせる。 ○リズムを感覚で覚えさせたい。(コール&レスポンスなど) ★ボール操作やステップ、ジャンプ、シュートなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている。【知・技】観察 - レイアップシュート(3点)ゲームの説明 ※出来たら、プレスディフェンスをさせる。(あたらせる) - 可能な限り、レイアップシュートを使ってゲームをさせる。 - 声かけ
終末 20分	・本時のまとめ(感想用紙記入) ・次時予告 ・挨拶、整理運動、片づけ	・ねらいにせまる効果的な活動ができたか考えさせ、感想や紹介を述べる。次時の確認ゲームへの意欲を高める

(4) 本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される具体例	支援を必要とする生徒への指導の手当て
運動についての知・技	・ボール操作やステップ、ジャンプ、シュートなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけ、作戦に生かすことができる。	・ボール操作やステップ、ジャンプ、シュートなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている。	・うまくいかない原因を説明し、ホワイトボードなどを活用して、課題解決のポイントを明らかにする。

7 本時の視点

- ・本時のねらいや授業内容の説明など行うための、ホワイトボード活用は有効であったか
- ・レイアップシュートをマスターするための道具(カラーコーン等)は有効であったか

カラーサークルゲームの行い方

1 ルール説明

- ・1組10人
- ・攻撃側5人, 防御側3人, タイマー, 得点係2人
- ・試合を2分の前後半に分けて, 2回戦行う。(1回戦 ⇒ 作戦会議 ⇒ 2回戦)
- ・前後半で攻撃(2分)と守備(2分)が交代する。
- ・アウトオブバウンズ, シュート, または守備にボールを取られた場合は, センターサークル内から攻撃をリスタートさせる。
- ・スタート時の攻撃側のポジションは, 所定の5か所から。
- ・攻撃はドリブル禁止。パスのみで攻撃する。
- ・守備は, 攻撃のパスカットを狙う。

2 得点方法

- ・魔法のサークル内に走りこんでシュート in ⇒ 4点
- ・制限区域内からのシュート(サークル以外) in ⇒ 2点
- ・サークル, 制限区域以外からのシュート in ⇒ 1点

スタート地点

